

概 要 (300 字)

奈良県高市郡明日香村を中心とする飛鳥・藤原地域では、世界遺産への登録をめざして、史跡の保護や整備が進められている。地域内には古墳時代から飛鳥時代にかけて築かれた古墳が数多く残されているが、それらのなかには天皇や皇族の陵墓に治定もしくは比定された古墳もあり、考古学だけでなく、歴史学にとっても大切な文化財となっている。国宝に指定された彩色の壁画で知られる高松塚古墳やキトラ古墳は立派な史跡公園となり、壁画鑑賞の施設も備わっている。そうした明日香村の古墳をめぐり、歴史を感じていただくために、このたびは 3 つのコースを紹介することにした。コース上の古墳や史跡を解説しながら飛鳥時代の歴史を語る講演としたい。

プロフィール

来村多加史（きたむら たかし）阪南大学国際観光学部教授。専門は日中考古学。1958 年、兵庫県明石市に生まれる。関西大学で高松塚古墳発掘者の網干善教氏に師事。1985 年から北京大学に留学し、皇帝陵の調査・研究を行なう。1988 年に帰国したのち、『前漢皇帝陵の研究』（学生社）を翻訳、『唐代皇帝陵』（学生社）を執筆し、博士号を取得。壁画古墳の研究では、『キトラ古墳は語る』（NHK 出版）、『高松塚とキトラ 古墳壁画の謎』（講談社）、『上下する天文 キトラ・高松塚古墳の謎』（教育評論社）を執筆。そのほか、講談社現代新書から『風水と天皇陵』『万里の長城 攻防三千年史』を出版し、中国軍事史関連の論著も多数。観光ガイド歴は 28 年に及び、全国・全時代の遺跡・史跡を案内している。